

投稿論文に現れやすい漢字誤変換を、本欄で過去2回にわたり紹介してきました(2017年11月号, 2020年10月号)。今回は、どう書くのがよいのか迷いやすい表記について、考えてみたいと思います。

・にも関わらず, にも拘わらず

Althoughの意味で「～にもかかわらず」という表現がよく使われますが、これは漢字ではどう書けばよいのでしょうか。投稿論文に、「にも関わらず」と表記されているのをよく見かけますが、「関わらず」とは「関係なく」ということですから、逆接のalthoughの意味になるはずがありません。字義からすれば「拘わらず」のほうがよさそうに思えますが、「拘わる」は、こだわるとも読めてしまうのが困ったところです。適切な漢字がないのであれば無理に漢字にせず、ひらがなで書くのがよさそうです。

・伺われる, 窺われる

「皮疹の拡大傾向がうかがわれたため」などの表現がときどき使われますが、これを「伺われた」と書くのは明らかな間違いです。「伺う」は、聞く、尋ねる、訪ねる、の謙譲語ですから、意味が合いません。「窺われる」が正しそうですが、「窺」は常用漢字ではなく、多くの人にとってあまりなじみのない漢字です。無理に読みにくい字を使う必要はないので、これも「うかがわれた」とひらがな表記を推奨したいと思います。

・兆候, 徴候

ほとんど同じ意味に捉えられているので、どちらを使ってもよさそうですが、厳密には異なる語であると思います。「兆」は前兆, 予兆などをみても分かるように、「兆(きざ)し」を意味する字ですので、「兆候」は、これから起こる事態を予測させる事象を指す言葉と思われます。対して「徴」の訓は「しるし」であり、特徴, 象徴といった語を構成します。つまり徴候とはある事柄のしるしとなる事象のことだと考えられます。したがって、医学的な「signs and symptoms」の意味では徴候を使うのがよく、兆候は未来を予測する場合(病状悪化の兆候がみられた, など)に限定して使うべきだろうと思います。

・融合(ゆうごう), 癒合(ゆごう)

この両者は読みも違うし、意味も前者は融けて合わさる、後者は癒えて合わさる、なので全然違うはずです。ところが皮疹が「融合傾向」なのか「癒合傾向」なのかという問題になると、途端に分からなくなります。字義からすれば前者が正しく後者が誤りだろうと思いますが、実際の投稿論文では後者をみることのほうが多いようです。その理由として、皮膚科医仲間での話し言葉で「ゆごう傾向」と言うことが多いので、誤った慣例として「癒合傾向」が頻用されているのではないかと考えましたがいかがでしょうか。なぜ「ゆごう傾向」が慣例になったのかは分かりません。もしかすると、長い歴史のある誤用なのかもしれません。(相馬良直)

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第64巻 第7号 6月号

2022年6月1日発行(毎月1回1日発行)

定価 3,080 円(本体 2,800 円+税 10%)

年間購読料金

定価 47,630 円(本体 43,300 円+税 10%)

[年間13冊(臨時増刊号, 増大号を含む)の誌代]

[年間予約購読者に限り送料無料]

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165 [編集室直通]

TEL 03(3811) 7184 [営業部直通]

FAX 03(3813) 0288

ホームページ www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権, 翻訳・翻案権, 上映権, 譲渡権, 公衆送信権(送信可能化権を含む), 貸与権, 二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY<出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構(TEL: 03-5244-5088, FAX: 03-5244-5089, E-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。